

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所として				公表日	令和8年 3月 3日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		3つの空間に分かれ、静と動の遊びや個々の課題に取り組みやすい環境になっている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9		こどもの発達に応じて、個別対応等の人員配置ができています。特に配慮が必要な児には、支援員が個別についている。午前クラスは、マンツーマンの体制で丁寧に向き合っている。また、理学療法士や言語聴覚士の職員から専門的な助言をもらっている。3事業所間でヘルプし合っている。	児に対する職員数は満たしているものの、個別対応する児が多い日は、人数が足りないと感じることもある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		9		こども達の目線に合わせた掲示物や指示カードで、次の行動がわかるようになっている。	現状に満足するだけでなく、より良い環境があるのではと、環境調整や見直しが必要なものもある。バリアフリーの部分が課題。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9		室内は、白で統一されていて落ち着いた環境だと思う。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		9		こどもの状況に応じ、安心して過ごせる場所の確保があり、使用することが出来る状況である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		役職関係なく意見や相談がしやすい環境だと思います。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	わからない。	第三者評価は実施していない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		社内研修では多くの学びがある。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		管理者も参画し、日々の療育プログラムを検討している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		日々の療育反省や意見交換をし、職員の共通理解を図っており、最善の利益を考慮している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		日々のインフォーマルなアセスメントにより、一人ひとりの本来の姿が見え、支援や関わり方にすぐに活かせることが多い。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		チームでの話し合いの下で立案しているため、適切な活動プログラムを立てることができています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		立案同様に定期的にチームでプログラムの見直しを行っている。日々の反省であがるこどもの姿に合わせて活動内容を調整している。	こども達の状況によって変えられていると思います。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		年齢などととらわれず、こどもの状況や状態に応じた支援計画を作成し、支援を提供している。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	療育の振り返りを話し合えない日は、別日に必ず実施している。 打ち合わせは、翌日に行いますが、気になることはその日のうちに話しています。 勤務時間の関係上、その日のうちに打ち合わせはできないが、特に伝えたいことはその日のうちに共有している。	毎回、翌日に打ち合わせをする時間を必ず設けております。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		午前療育中に、フリーの立場でこどもと支援者の様子を見て学ぶ機会がある。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	わからない	各事業所児発管、もしくは管理者が参加しております。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2	担当児が年中以下のため、該当しない。 わからない。	当該事業所は主に年中児より下の年齢の幼児をサポートしているため、当該事業所においては年長児クラスでは毎年、就学前に児童の引継ぎを実施している。ただし、小学校によるため、全児の情報共有はできていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3	わからない	これまで事業所として依頼する機会はなかったが、発達支援センターの体制上、積極的に行えていないのではないかと感じる。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	5	放課後等デイは、地域交流の機会がたくさんあるが、児発はツナガルFESで他の児童と関わる機会のみとなっている。	ほとんどの利用児は、保育園や幼稚園を併用しているため、交流する機会を設けていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		日々の送迎時や連絡ノート、ブログ、親子通所等を通じ、様子をお伝えして共通理解を図っている。連絡ノートでのやりとりの頻度はあげていきたい。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2		今年度より親子通所の中で、保護者向けの研修会を開催している。	
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	2	管理者が行っているため、非該当	管理者が契約時に実施している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	児発管が実施しているため、非該当	初回の計画は、契約時のアセスメントを反映している。更新時は、アセスメントシートへの記入と面談時の聞き取り内容を反映している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	1	児発管が実施しているため、非該当	児発管が実施しています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	児発管が実施しているため、非該当	少なくとも半年に1回面談を実施していますが、必要に応じて開催している。年長児クラスは、就学前面談も実施している。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	4		父母会はないが、親子通所等を利用して保護者同士の交流を図ればと思います。

説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1		児発管が対応しています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	まだ言葉が出ていないお子さんに関して、療育を通して社会性の発達を促し、成長を見て絵カードなども取り入れて、意思の疎通を図れるように工夫しています。	連絡ノートやおたより、LINE等を用いて、内容を読み返せるように工夫している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	放課後等デイサービスの行事に参加している。 わからない	放課後等デイサービスのイベントで、地域の方を招待している。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	わからない	契約時に説明をしているが、マニュアルの内容をすべて周知することはできていないため、ホームページに掲載するなどして対応す
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1	わからない	見学时、契約時に必ず確認をしている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	アレルギーのある子に対して、提供されるおやつは、しっかり区別されている。 わからない	基本的に医師の診断書がなければ、おやつを提供することはできない事としている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		管理者が作成したものを基に安全管理を心がけている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2		契約時に、緊急時、事故発生時の対応について説明している。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	2	ヒヤリハットの伝達の必要性を再確認していき、怪我や事故などを防いでいきたい。	日々、ヒヤリハットがあれば共有するが、有無の確認は抜けていた。日ごろから確認作業を行うことで意識が高められるのではないかと。 3事業所のうち、自事業所しか把握できていないため、改案があると参考になるのではないかと思った。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	3	新しい職員も加わり、改めて身体拘束がやむを得ない条件の確認をしていく必要がある。 該当児童がいない。	支援計画に記載しているかはわからない。	